

# ENVI6.1

## リリースノート

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。

<https://www.nv5geospatialsoftware.com/Software-Technology/ENVI>

### ENVI6.1 のサポートプラットフォーム

ENVI6.1 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。ソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）が必要になります。

プラットフォーム	ハードウェア	OS	サポートバージョン <sup>a</sup>
Windows	Intel / AMD 64-bit	Windows	10, 11
Macintosh	Intel 64-bit / M シリーズ <sup>b</sup>	macOS	12, 13, 14 <sup>c</sup>
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 4.18.0 glibc 2.28

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。ヘルプシステムは HTML5 対応ブラウザを必要とします。

<sup>a</sup> サポートバージョン中の記載は、ENVI / IDL の構築・テスト環境を示しています。弊社による公式のサポートは、表に記載されたインストール環境に対して適用されます。

<sup>b</sup> Mac M シリーズでの動作には Rosetta 2 emulator が必要です。

<sup>c</sup> Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.8.5 にて動作確認されています。

現行の ENVI の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	4GB
メモリ	8GB
CPU	最小 2Core 推奨 4Core 以上 AVX 必須

## ライセンスサーバのサポートプラットフォーム

本製品をフローティングのライセンスのサーバー機として使用する場合には、ライセンスサーバ (License Server) を使用します。そのライセンスサーバのサポートプラットフォームを以下の表に示します。なお、MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。

ライセンスサーバをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、フローティングライセンスに関しても、ライセンス認証にはネットワークカード (NIC もしくは Ethernet) を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64bit	x86-64	Windows 10, 11 Windows Server 2019, 2022
Linux	x86-64	CentOS 8, 9 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8, 9 Ubuntu 20.04, 22.04 Debian 10, 11 SUSE 12, 15

また、現行の License Server 4.3 の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	500MB
メモリ	4GB
CPU	2GHz – 2 Cores

ライセンスサーバとクライアント間の通信はデフォルトの設定では TCP 4080 (HTTP)と 40443 (HTTPS)を使用しますので、ファイアウォールなどで通信許可を設定してください。搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help は HTML5 対応ブラウザを必要とします。CPU は AVX 対応が必須となります。

## ENVI6.1 の新機能

ENVI6.1 の新機能詳細は ENVI ヘルプの「What's New」のページを参照ください。

## ENVI6.1 の既知の問題

macOS 上の Safari ウェブブラウザで ENVI ヘルプシステムを使用すると、「The operation couldn't be completed」というエラーが発生、もしくは空白のページが表示されます。Safari のデフォルト設定では、一部のローカルファイルの操作を禁止しています。このエラーは、ヘルプシステムによって自動作成された一時的な HTML ファイルが、特定の IDL ヘルプコンテンツへのリダイレクトを実行しようとしたときに発生します。以下へ 2 つの回避策を記載します。

- Safari でローカルファイルの制限を無効にする「Disable Local File Restrictions」という設定を有効にします。
- Safari でローカルファイルの制限を無効にしない場合は、Chrome または Firefox をブラウザとして使用して IDL ヘルプコンテンツを開いてください。

## ENVI6.1 で修正された問題

ID	解説
ENVI-70758	ENVI API で保存されていない ROI を使用しようとすると、エラーが発生した。
ENVI-72953	ENVI/ENVI LIDAR では LAZ1.4 ファイル形式のサポートが必要だった。
ENVI-72966	WMS のパフォーマンスと表示解像度の問題があった。
ENVI-73005	カスタムメニューの項目が追加されると、表示メニューからショートカットキーが消えていた。
ENVI-73014	EnMAP レベル 1C データを開くと、エラーが発生した。
ENVI-73020	ENVI 6.0 の Forward MNF ツールでは、結果の表示に長い遅延があった。

<b>ENVI- 73034</b>	.hdr ファイルに無効なジオポイントが含まれている場合、ROI を追加するとエラー無しで ENVI がクラッシュした。
<b>ENVI- 73039</b>	FLAASH の文書内にて入力スケールの FLAASH の単位が誤って記載されていた。
<b>ENVI- 73044</b>	ThermalAtmosphericCorrection タスク: スケールファクタ(スケール係数)を指定するための 0.01 オプションを許可していた。
<b>ENVI- 73057</b>	複数の NITF からラスターストックを構築する際、BuildRasterSeries タスクのデータセットのインデックスが正しくなかった。
<b>ENVI- 73064</b>	モデラーでバンド間演算の数式を更新すると、ENVI がクラッシュした。
<b>ENVI- 73087</b>	ArcPro 3.3.x の最新アップデートで、「Send to ArcGIS Pro」機能が壊れていた。
<b>ENVI- 73088</b>	Sentinel2 レベル 2A タイルは Linux 上で正常に読み込まれなかった。
<b>ENVI- 73101</b>	FLAASH: WV-2 NITF ファイルの IFOV が自動的に計算されなかった。
<b>ENVI- 73104</b>	Change Detection Workflow: 日本語の Linux OS でユリウス日付エラーが発生した。

## ライブラリの更新

ENVI 固有のサードパーティライブラリの更新を行いました。IDL と ENVI の共に影響するサードパーティの更新については、IDL リリースノートを参照してください。

更新されたサードパーティライブラリ :

- FFmpeg 4.4.5
- LASZip 3.4.4
- Spatialite 5.1.0